

こ だ い ひ と
古代の人びと
こふんじだい ならじだい へいあんじだい
 (古墳時代・奈良時代・平安時代)

江戸川区の一带は、縄文時代の終わり頃でも海であり、わずかな陸地も人の住めない低湿地でした。弥生時代に入ってから、地盤の隆起や川の運んだ土砂で陸地ができると、小高い場所を選んで人が住み始めました。

北小岩六・七丁目付近の上小岩遺跡かみこいわの発掘調査によって、ここに弥生時代の後期頃(約1800年前)に人が住み始めたことがわかりました。古墳時代(約1600年前から400年間程続いた時代)には半農半漁はんのうはんぎょの生活を営む人々が住んでいたと考えられます。特に前期には集落があった可能性もあります。



古代のムラの想像図

古墳時代には、全国各地で力のある者が大きな墓(前方後円墳など)をつくり、日本の国がひとつにまとまりはじめた時代でした。

この頃のムラには、人々の住む竪穴住居や、作物を保存する高床式倉庫などがあり、半農半漁の生活をしていたと考えられています。生活道具のひとつとして、ものを煮たり貯めたりする甕かめや壺つぼ、食物を盛ったり神に捧げるときに使う高坏たかつきなどの土器が作られて使われました。



上小岩遺跡発掘風景(1984年)

生業は主に水田や畑での作物づくりでしたが、海や川で漁をする人もいました。上小岩の場合も農業と漁業の両方でした。



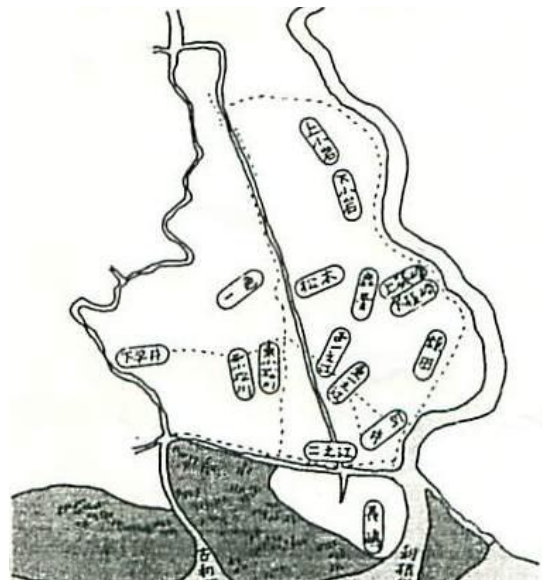
上小岩遺跡から出土した土器
(中村進氏所蔵資料)

もう少し時代が新しくなると、文字による記録がつくられるようになります。現在わかっている江戸川区に関する最も古い記録は、奈良県の東大寺正倉院に残っている下総国葛飾郡大嶋郷の養老5年

(721)の戸籍です。この記録によって今から1300年程前、小岩付近には454人の住む村があったとされています。甲和里という村で、これが小岩のことではないかと考えられています。ここに住んでいた人のほとんどが、「孔王部」という姓をもっていました。

現在の市川市に国府が置かれ、大和朝廷の勢力が下総国にも及んでいました。人々は耕地を与えられて労役に従事し税を納め、時には国土防衛のために九州に派遣(防人)されたり、東北平定のための兵士として駆り出されたりしました。そのため、東国では中央政府に対する不満が強くなり、政情は不安定でした。

各地で反乱が起こり、度重なる戦乱で農民の生活はおびやかされ、生産力も低下していきました。そこで、一部の有力者は自分の領域を有力寺社などに寄進して、その保護を受けました。本区あたりを領していた葛西氏も葛西33郷(江戸川区、葛飾区ほか)を伊勢神宮に寄進し、「葛西御厨」と呼ばれる荘園を掌握していました。



葛西御厨の村名(2ヶ所は場所不明)

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)